

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2022年 12月 23日

所属： 教育文化 学部／研究科 地域文化 学科・課程・選修／専攻 3年

氏名：熊本柚月

派遣先大学名（国）：国立ハンバット大学校（韓国）

在籍身分：交換留学

派遣期間：4か月

渡航年月日：2022年8月25日

帰国年月日：2022年12月16日

○派遣先大学における授業等の履修状況

Day Time	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1 class (09:00~09:50)					
2 class (10:00~10:50)		学業韓国語2			
3 class (11:00~11:50)					
4 class (12:00~12:50)					
5 class (13:00~13:50)					
6 class (14:00~14:50)	グローバル キャップストーン デザイン	韓国の祭り と 年中行事 コンテンツ		学業韓国語1	メディア韓国語2
7 class (15:00~15:50)					
8 class (16:00~16:50)					
9 class (17:00~17:50)					
10 class (18:40~19:30)					

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

まず、受講した講義の内容について記述する。「グローバルキャップストーンデザイン」は、今学期のテーマが日本文化であり、日本文化を韓国へ伝えるためにどのような結果物を出すか、グループごとに考え、実際に制作するといった内容であった。「学業韓国語 2」は留学生が受講する韓国語の授業の中で最も上のレベルのもので、延世大学の教科書を用いた高級レベルの読解を学んだ。「韓国の祭りと年中行事コンテンツ」では、韓国の祭りの形態やコンセプトについて学習した後、自分で祭りを企画するという内容であった。「学業韓国語 1」は、韓国語能力試験 4 級レベルの授業であり、読み・書き・聞き取り・会話など様々な方法で学習した。「メディア韓国語 2」では、ニュースや映画、ドラマなどの媒体を用いた韓国語の学習に加えて、パワーポイントや発表原稿の作成の仕方を学び、実際にプレゼンテーションを行った。

次に、留学での学習をどう生かしていくかについて、私は留学先の大学で日本語を教えている 2 人の日本人の先生と出会い、お話しする機会があった。その時に先生たちが、コロナ世代の学生たちは大人しく、休み時間も特に会話することなく一人で過ごしているといった話をしているのを聞いて、私自身も 2020 年入学であり、大学入学とコロナが重なっている世代であることから、このことに関心を持ち、「コロナに対する大学の規則や対応、制限が大学生に与える影響」というテーマを決めることができた。感染対策が人々の行動にどのような影響があるのか、自分自身もコロナ禍で大学生活を送っているため、大学生に焦点を当てて、先生にコロナ以前と現在では、大学生がどうちがうのかなどを聞き、大学のコロナ対策が大学生に与える影響を考えたい。当事者研究ということで、韓国の学生や日本人の先生たちへインタビューを行いながら、研究していきたいと考えている。

○生活面について

現地では韓国人の学生二人とグループになり、週に一度活動をする機会があり、私は日本人であり、日本語を用いる活動であったため、主に日本語で会話していたが、時々韓国語でも会話し、私が日本語を教えたり、日本への留学の準備を手伝ったりした。また、日本語学科の学術祭という行事に参加し、日本語のコントや演劇の発音やイントネーションを教える役割を通して、日本語学科の学生たちと親しくなり、休日と一緒に過ごし、現在でも連絡を取り合っている。寮は 2 人部屋で私は同じく秋田大学から留学した先輩と同室になった。同じ文化で性格も合い、掃除など役割分担しながら暮らすことができた。食事は主に寮の食堂や外食、デリバリーをしていたが、日本では韓国料理が簡単に食べられることもあり、留学前から慣れていたので、辛さ以外には特に問題なく食べることができた。日

本の味噌汁や納豆、梅干しなど和食が恋しくなり、何度か日本料理屋さんで日本食を食べたこともあった。

韓国に来て慣れなかったことは、交通機関や支払方法だ。バスやタクシー、車の運転が荒く、少し怖かった。バスは座る前に出発してしまうため、「빨리 빨리」文化（韓国語でパリパリ、早く早く行動する、せっかちという意味）が本当にあるのだと思った。私自身が動きがゆっくりな方であるため、なかなか慣れなかったのだと思う。また、日本と異なり茶碗を持たず、箸を持たない方の手は下に置くため、不思議に感じた。海外に行くことが初めてであった私は、その国ではその国の文化やマナーに合わせるという経験が初めてであったため、不思議な気持ちであった。食堂ではおかずがたくさん出てきて、注文していなくてもたくさん出てくると知っていたが実際に体験して、新鮮で、食べきれずに残しても問題ないという点ももったいなく感じた。礼儀に関しては日本と韓国は近いこともありそこまで大きく変わることはなかったため、比較的過ごしやすかったと思う。

○その他留学全般にわたる感想

私は海外へ行ったことも、家族と離れて生活したこともなかったため、今回の留学生活は思い出深く、人生で貴重な経験となった。他の国から来た留学生との出会いや、コロナで大学生活も普通に送ることができたかったため、秋田大学の先輩との出会い、現地での韓国人の学生たちとの出会い、日本人の先生や韓国人の先生との出会い、すべての人たちとの出会いは留学をしなければ決してできなかったことであり、皆さんが優しく温かく迎え入れてくれたため、幸せな時間を過ごすことができた。特に他の国から来た留学生の中ではキルギスタンからの留学生と親しくなり、帰国前には泣いてお別れした。私のことをとても好いてくれていて、純粋に韓国語が大好きで勉強している姿を見て、自分も頑張ろうと思えた。同じ授業は2つだけだったが、登下校や休みの日にご飯を食べたり、別れる際にはお互いにプレゼントをしたりした。その子の積極的な発言に刺激を受け、私も授業中の発言を心掛けることができた。韓国語で会話をするため、実力を上げることにもつながり、良い関係で過ごすことができて本当に良かった。

留学という経験が今後の自分にも大きな力になってくれると確信できるような留学生活だった。約4か月という短い期間であったが、貴重な経験になった。



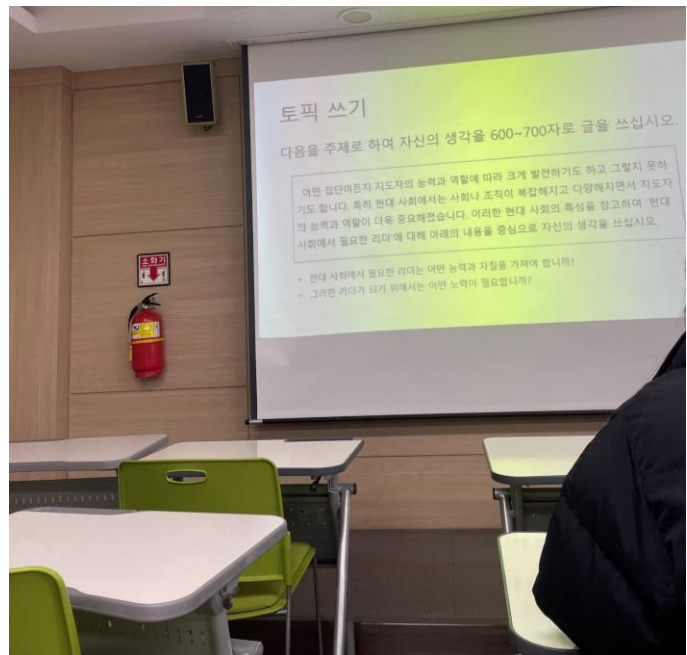
キャップストーンデザイン最終発表



主に授業を受けていた棟



カフェでテスト勉強



学業韓国語 1 授業風景

○渡航費補助について

寄付金のおかげで留学することができました。しっかり学習してきました。ご支援をありがとうございます。